

<平成29年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

神奈川県 横浜市立義務教育学校
西金沢学園 中学部





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリビズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことの出来るものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

平成29年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等）を設け、
生徒が考える機会を作る



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



実 施 内 容

- 期 日 : 平成30年3月15日 (木)
- 場 所 : 横浜市立義務教育学校西金沢学園中学部
- ク ラ ス : 8年2組 (22名)、8年1組 (25名)
- オリンピアン : 荻原 次晴 先生 (スキー・ノルディック複合)
- 授業のながれ : 運動の時間 (2時限、4時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・簡単な自己紹介の後、平昌大会についての感想等を生徒に尋ねる。次に、自身が出場した長野大会の写真を見せスキー競技(ノルディック複合)について説明。東京2020大会では横浜市でサッカー、野球、ソフトボール、神奈川県でセーリングが実施されること等を紹介した。今日は、頭と体を使ってオリンピックについて考えようと促し、運動の時間は自分が得意とするスキージャンプと掛けて、皆にもジャンパーになってもらおうと伝え、準備体操に移る。

3. 主運動



- ・8の字跳び(90秒間×2回戦)ルール①90秒以内に跳べた合計回数を競う、②引っ掛かっても連続して数える、③実施の際は1チームずつ行う。実施しないチームは応援しながら声を出して回数を数える。各回終了後、中央に集まり結果を報告。スポーツは頭よりも皆の「輪」を大切にすることであうまうまくと伝える。
- ・人間知恵の輪：クラス全員で手を繋ぎ内側を向いている全員が手を離さずに外側を向く方法を考える。

4. まとめ



・運動の時間では、8の字跳びを通して皆の心が一つになることができた。それがスポーツの楽しさである。次の座学の時間では、頭を使ってオリンピックについて学ぼうと促し、オリンピックバリューを紹介し、その意味を生徒に尋ねる。リスペクト=尊敬、フレンドシップ=友情、エクセレンス=素晴らしいと挙がり、続きは教室で話すと伝え運動の授業を終了。



実 施 内 容

■授業のながれ： 座学の時間（3時限、5時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・運動の時間の頑張りを称え、生徒とコミュニケーションをとるために自らの名前等について話す。その後、映像を見せながら自己紹介。
- ・荻原先生は双子であることや3歳からスキーを始め、中学からノルディック複合に転向したこと、全国大会や国際大会に出場した経験を話す。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：日常生活においてオリンピックバリューを感じられるのはどのような時か考えてみよう。
- 発表：各班の代表者1名が前に出て発表（1組は全班員が前に出て発表）。（抜粋、順不同）
- 試験で良い点数が取れた時、諦めずに努力した時（エクセレンス）、友達に相談に乗ってもらった時、友達と一緒に笑ったり泣いたりできた時（フレンドシップ）、誰かにいい影響を与えてもらった時、先輩に部活でコツを教えてもらった時（リスペクト）

4. まとめ



- ・オリンピック教室前には、もしかしたら気付いていなかったかもしれないが、皆の心の中には既に3つのオリンピックバリューが存在していた。その気持ちを持ち続けてほしい。
- ・2年後の東京大会では、世界中から多くの人が集まるので、観戦したり、ボランティア等、どのような形でも構わないので、大会に携わり、選手にたくさん声援を送ってほしい。最後に今日の2時間の頑張りについて、お互いに称え合い、拍手をして授業を終えた。



記録写真

■ 集合写真

2年1組



2年2組





記 録 写 真

■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



■ 証明書贈呈

